第１回 北海道東部の竪穴群調査懇談会 議事概要

１　日時及び場所

日時：平成２８年６月２２日（水）　９時３０分から１１時３０分

場所：道庁別館７階　教育庁会議室

２　出席者

〈構成員：３名〉

熊木俊朗 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（座長に選出）

高瀬克範 北海道大学大学院文学研究科准教授

椙田光明 元ポー川史跡自然公園長

〈北海道埋蔵文化財センター：３名〉

長沼常務理事、田口普及活用課長、坂本普及活用課主査

〈北海道教育委員会：４名〉

長内文化財・博物館課長　西脇文化財調査グループ主幹　ほか

３　意見交換

〈話題提供〉

構成員の一人が「北海道東部の大規模竪穴住居跡群をめぐる研究の現状と課題」と題して話題提供を行った。

・世界遺産暫定一覧表への追加登録の取り組みについて、①竪穴群の知名度を高める必要性、②アイヌ文化を含めた構成資産及び地域設定を検討する考えがある。

・大規模竪穴群の評価について、①世界的評価、②国内評価の視座を紹介。

①ロシアのサハリン・アムール川流域において大規模竪穴群の調査が行われ、その様相が少しずつ解明されつつあるが、各遺跡の歴史的コンテクストに踏み込んだ比較検討が必要である。

②北海道東部の大規模竪穴群には、縄文文化・続縄文文化の遺構が一定量含まれていることから、遺構の時空間分布の検討が重要である。さらに、竪穴群の主体と想定される擦文文化の遺構が形成された背景を研究し、後続するアイヌ文化期を視野に考古学的な調査を展開していく必要性がある。

その後、話題提供や竪穴群調査計画について意見交換が行われた。

〈構成員の主な発言〉

世界遺産暫定一覧表への追加登録の取り組みについて

「アイヌ文化を含めた資産構成の見直しについては、慎重に検討する必要がある。」

考古学的調査について

「測量調査を行う際、草刈りを丁寧に行うことで、遺構の形態を捉えやすくなる。さらに竪穴に付属する遺構を検出できる場合がある。」

「大規模竪穴群における各遺構の時期について年代学的な検討をし、各時期の住居数・規

模を把握する必要がある。」

「発掘調査では、調査期間・予算等を考慮する必要があるので、効果的な調査方法、発掘区の設定等を検討する必要がある。」

竪穴群のデータベース化・名称について

「竪穴群のデータベース作成において、遺跡の属性に『時代』を用いず、『年代』・『文化』を記載していく方法は有効と思われる。」

「『竪穴住居群』という名称について、内容・性格が明らかでない窪みも含まれている現在の状況では『竪穴群』が適当と考えられる。」